

寺報

龍正寺

日なた 74号

一口法話

子供は

親の背中を

見て育つ

日
延



<平成26年7月>

宝龍会
護持会

進藤上人来山の様子



お上人方、檀信徒と
膝を交えて和気あいあい



茶話会は絶好調 !!



「女偏に家でヨメ（嫁）、古いだとシュウト（姑）…」
ユーモア溢れる、進藤上人のお話しに引き込まれ、気が付けば時計の針は終了時刻をさしていました。

「一年に一度は、進藤上人のお話しをお聞きしたい。岐阜にお招きしたい。」
今年もこの願いが叶いました。

6月22日(日)例祭終了後、進藤上人に法話をして頂きました。

法話と聞くと何か堅苦しいイメージがありますが、そんなイメージとは程遠く進藤上人の気さくな人柄が溢れる話しぶりで、狭い本堂を所狭しと歩かれたり、一人ひとりに話しかける様なお話の仕方です。「なるほど…」と考えさせられたりと、あっという間の1時間30分でした。

法話終了後の茶話会にもそのまま殆どの方が参加され、和気あいあいとした時間を過ごす事ができました。

全ての日程が終わり、終了した時刻はむしろいつもの大祭の時よりも遅かったので体は疲れていたはずなのですが、不思議と疲れは感じませんでした。

進藤上人のお話しをお聞きして、「活力」で身体の中が満たされたからかもしれません。この日お聞きしたことを毎日の生活に少しでも生かしていけたら…と思いました。



往 職一言「伝える」

お盆月になりました。

盆 = 盂蘭盆会と言います。

7月 13、14、15、16日、月遅れ 8月 13、14、15、16日です。

旧暦(陰暦)から太陽暦へ変更され、旧暦の7月盆がそのまま新暦の7月盆になり、月遅れ8月盆が現在にいたっておきます。

13日の盆の入りには、迎え火を焚き、家族でお迎えをし、精霊棚にお供えをして、御先祖様を供養をし、15日の夜から16日の午前中に送り火を焚き、家族で御先祖様を送りする。

一年に一度の大切な大切な行事です。

今は、私たちの身の廻りの、大切な行事が、子孫に伝えられなくなりました。

核家族が多くなった為でしょうか。

「子供は親の背中を見て育つ」と言われます。

親は子供達へ伝えていくべき事柄を、伝承して
いかなくては、ならないのではないのでしょうか。
親と子が共にかかわり合い、交わり合う中で、
家族の大切な事柄を伝え、繋げて、いくのでは
ないかと思っております。

この、お盆に、御先祖様と、子孫のつながりを、
とじて、親、子のつながりを大切にしましょ
う。

合 掌

幸せになるには“気づき”が必要



“気づき”というのは、簡単に言えば、自分の性格の欠点を認め、直していくことです。

“人生をよいものにするためには、不幸の原因を環境や、関わる人に求めるのではなく、自己責任ととらえて、自分自身を変えていく努力をしなければいけない”ということです。

例えば人に馬鹿されたとき、相手を恨んで生きていくか、馬鹿されたことを“学び”として前向きに生きていくか。

どちらかを選ぶかによって人生はまったく違った方向へ進んでいきます。

世の中の出来事は、自分がどのように考え、どの角度から見るとよくなるか、よくも悪くもその形を変える。

多くの人は、自分の都合のいいように物事をみて「いいこと」と「悪いこと」を判断している。

そういう人は、いつでも「できなかった理由」を人のせい、環境のせいにする。

人生起こることすべては自分から起こった結果である。直視しなければならぬ。

決めているのは自分であるということに。

人は、自分らしい人生を生きたいと、思っているが、人間として、自分の人生の責任を引き受けることを意味します。

気がきの道か、気がけない道か。

気がきの道は一見すると険しい道程に見えますが、人生を幸福にするため、恐れずに歩んでほしいと思います。

風の神様

先日子ども達が自宅の階段でボール遊びをしていました。階段で遊ぶのは危ないからやめるよう注意したのですが、何度言っても聞かれません。とうとう雷を落とした私でしたが、その時のことです...

その日は風の強い日でした。私の前に息子2人を座らせて叱っていると、急に強風が吹き、家の中にあつた書類などが飛ばされたのです。私はとっさに「風の神様も怒っているよ!!」と言いました。息子達は表情を変え、特に3才の息子は「ごめんね!!!」と慌てて言うようになりました。すると不思議なことに風が治まり、「ちゃんと反省できたから神様も許してくれたいからね」と話すことができたのです。

神様仏様が見ていて下さると実感した一瞬でした。偶然と言われればそれまでです。昔の自分も、どちらかと言えばその考えの持ち主でした。沢山の経験とそこから教え、導きのお陰で当たり前だと思っていた事も、そうなる事が有難いと思えるようになりました。

家族が健康でいてくれるお陰で仕事が出来てもら
えています。子どもの病気は急な時もあります。そんな
時は仕事を別の人に代わってもらうよう手配しなければ
ならないのでとても大変です。

久しぶりに仕事の休みを頂いていたのですが、その日
に子どもが体調を崩し、約束をキャンセルして事が
ありました。これは二度目の出来事…。子どもの体調は
心配ですが、仕事先に迷惑をかけず、看病をさせて
頂いた事が有難いと思われました。約束していた友人
には申し訳なからたのですが、子どもの事だからと許して
くれました。これは偶然なのでしょうか？ 私には仏
様が私にとって最善の方向に導いて下さったと思えま
した。

常に、神様、仏様は私たちを見て下さっています。
日々 報恩感謝ですね！！

～ 食べること 生きること ～

若い頃は「食べる」という事は楽しみでした。それが50才を過ぎた頃からでしょうか、噛む事・飲み込む事に違和感を意識するようになりました。

子供の頃に「歯をしっかりと磨きなさい。」「よく噛んで食べると、唾液の分泌がよくなり、胃の消化を助ける。」よく噛むと頭の働きが良くなる、など学びましたが、体で実感する事はありませんでした。

今はそのひとつ、ひとつの動作の必要性を実感しています。それに気がつく事が出来たのも今の仕事のおかげです。

「食べることは生きること」だとある方に言われた事があります。その方は、飲み込みがしづらい、嚥下状態が良くない方でした。いつも食事中は、ひと口、ひと口が命かけです。

食事を味わう・楽しむという喜びではなく、まず、生きる為に口の中へ食物を入れる、噛む、飲み込むという作業だけでも大きなエネルギーを消耗するのです。

「もーいい!! 食べない、食べたくない。」と言われる方に、「もう少しだけ、...あとひと口、がんばりましょう。」と声かけするのはつらい事です。たかがひと口と思えますが、小さなスプーンの中のほんの

ひとさじを「ごっくん」を何度も繰り返され、ようやく飲み込まれる。

そのひと口後の疲れた様子は、一生懸命に生きてられる姿に心が熱くなります。

そして、その場面に直面するたびに、もう一つ思う事があります。

「食べる」ってこんなに大変な事なんだ。そして… 一生懸命に「食」と向い合って生きていく事を考えるようになりました。

ふっと、食卓へ並ぶ料理に、どれほどの人々が係わっているのでしょうか？ もし、一食の食事を一人で作るとなると、動植物の生産・加工・調理という工程をしなければなりません。

それを考えるたび、食卓の「食べ物」に心から感謝したくなります。

この頃は「いただきます。」「ごちそうさま」を言わない人が多いと聞きます。「食」は自分達が生きる為に、動植物の大切な命を頂いているのです。

大切な命を頂く事に感謝し、これからも生きてゆく為の「一一口」を一生懸命に食べなくてはいけないと思います。それほどに、命を頂くと言う事は、大変な事だと思うのです。食事前後は必ず合掌し、御題目を唱えます。いつか食べられなくなる時があるかも知れませんが、……

生きる = 食べる = 南無妙法蓮華経 …。

子供達に「食」の大切さを子供達へ伝えていきたいと思います。それが私達大人の務めだと思っています。子供達がいつか大人になり「食」に感謝できる生き方をしてほしいと思います。

< 7月寺院予定 >

7月13日(日) 午後1時より { 孟蘭盆施餓鬼大法要
(宗祖日蓮聖人報恩会

7月18日(金) 午前10時より 鬼子女尊神
七面大明神) 祈禱会

< 住職予定 >

7月7日(月) 午後2時より 協議員会
原務所に於いて

< 7月予定 >

7月1日(火)	各々の時間で	清掃、準備活動
↓	↓	↓
11日(金)		
12日(土)	午前10時より	飾り付け
13日(日)	法要終了後	片付け、準備
14日(月)	各々の時間で	清掃、準備活動
↓	↓	↓
17日(木)		